

国語プリント（ ）										配布日 月 日 曜									
原稿用紙の書き方（縦書き）										年 組 番 名前									
原稿用紙には記入のルールがある。そのルールに則って書けば、とても読みやすい文章になる。																			
一、段落の変わり目																			
改行し、最初の一字分を空けて書く。段落を変えない場合は、改行はせず、マスを空けることはしない。																			
二、会話文																			
かぎかつこ（「」）で囲む。まとまった会話文は改行して、その部分を「」で囲み、続きの文は新たな行から始める。また、かぎかつこは「」のように、マスの下、または上に寄せて書く。																			
三、句読点や符号																			
句点（。）、読点（、）、中点（・）、かぎかつこ類（「」）など（ ）など）、疑問符（？）、感嘆符（！）などは、一字分として扱う。																			
句点（。）、読点（、）、かつこ類の閉じるほう（「」）などが行の冒頭に来る場合は、前の行の最後のマスに文字と一緒にに入れて書く。																			
句点とかぎかつこの閉じるほうが続く場合は一マスにまとめてよい。																			
かつこ類の初めのほう（「」）（など）が行の末尾にくる場合は、かつこ類と文字を一マスにまとめて書くか、そのマスをあけて、次の行の冒頭に書く。																			
四、促音・拗音																			
小さな「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」などは、一マスを使って書く。																			
五、数字・アルファベット																			
縦書きの場合は原則として漢数字を用いる。ただし、データその他で算用数字を用いるほうが適当な場合は、数字を横にして、一マスあたり二けたで書く（0123456789）。アルファベットは、スペル（spell）のある英語は横に寝かせるが、大文字の略語（ITなど）は縦書きでよい。また、大文字は一字一マス、小文字は二文字で一マスとする。																			

六、引用文は、短い場合はかぎかつで囲み、出典（その文章の出所）を明らかにする。長い場合は次の例のように、二マスずつ上を空け、地の文（他の文）との区別を付ける。

（例）

次の引用は芥川龍之介著「羅生門」である。

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

広い門の下には、この男のほかにはだれもいない。ただ、ところどころ丹塗りのはげた、大きな円柱に、きりぎりすが一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする市女笠や揉烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかにはだれもいない。